

平成23年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会
—開催地市長歓迎挨拶—



みなさん、こんにちは。舞鶴市長の多々見良三でございます。

平成23年度日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会の開催にあたりまして、開催地舞鶴市を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日の総会には、大変、天候の悪い中、北は北海道から南は九州まで、日本海沿岸の港湾を核とした地域振興に取り組んでおられるネットワーク会員の皆様に、遠路、舞鶴にお越しいただきましたことに、心より歓迎申し上げます。本会を当市において開催できますことを、大変光栄に存じます。

さて、我が京都舞鶴港は、皆さまの地域と同様に、昔から海と深くかかわりを持ちながら、発展を続けてまいりました。

昨年4月には、日本海側では有数の5万トン級船舶に対応するマイナス14m岸壁を有する「舞鶴国際ふ頭」が供用開始され、関西経済圏のゲートウェイとして、他の港湾との連携も含めて、国際物流ネットワークの拡大に努めているところであります。

去る3月11日に発生した東日本大震災において、太平洋側の港湾施設が致命的な被害を受け、また同じ港湾行政を担う仲間やその家族が命を失うという悲劇が生まれましたが、日本海側の港湾が太平洋側港湾の物流機能の一部を補完、代替し、リダンダンシー機能を発揮したことは、誰もが認めるところであります。

本ネットワークにおいては、それを更に推し進めるため、“宣言”により、その意思表示をしていきたいと考えております。本日、ご参会の皆さまには、その主旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、本日、ご参会の皆さまのご健勝と、日本海にぎわい・交流海道ネットワークの益々の発展を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。